

## 5. 財務状況の推移

### (1) 連続資金収支計算書 (2002年度～2007年度)

【法人全体】

単位：千円

科 目	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
<b>資 金 収 入</b>						
学生生徒等納付金収入	9,491,136	9,188,815	8,792,292	8,731,150	8,579,136	8,465,820
手数料収入	489,462	435,232	393,991	320,901	317,809	281,006
寄付金収入	88,545	48,893	54,674	38,494	33,611	105,850
補助金収入	1,079,203	964,041	1,004,094	935,716	1,002,663	1,158,204
資産運用収入	237,379	244,326	273,408	317,906	366,905	433,212
資産売却収入	0	0	0	0	0	0
事業収入	63,787	68,806	81,872	81,429	84,037	95,987
雑収入	400,001	344,366	361,160	318,766	399,227	272,535
借入金等収入	41,833	0	0	0	0	0
前受金収入	1,728,402	1,655,495	1,687,144	1,628,530	1,587,834	1,677,345
その他の収入	390,231	3,209,977	475,480	567,376	12,466,596	2,197,664
資金収入調整勘定	△ 2,216,290	△ 2,005,778	△ 2,039,206	△ 1,993,783	△ 1,945,190	△ 1,937,400
前年度繰越支払資金	4,126,085	4,748,268	5,270,291	5,122,388	4,918,232	5,458,192
資金収入の部合計	15,919,773	18,902,441	16,355,199	16,068,873	27,810,861	18,208,412
<b>資 金 支 出</b>						
人件費支出	6,525,740	6,221,286	6,403,519	6,030,825	6,272,982	6,198,984
教育研究経費支出	2,140,512	1,890,309	2,090,597	2,390,271	2,447,791	2,583,223
管理経費支出	673,801	618,571	521,106	779,316	773,983	858,646
借入金等利息支出	0	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	41,833	0	0	0
施設関係支出	146,961	31,502	66,129	160,694	327,781	1,633,948
設備関係支出	286,039	200,436	242,728	299,537	185,955	335,532
資産運用支出	749,686	4,444,501	1,807,723	1,404,931	12,767,127	630,000
その他の支出	842,006	388,818	323,107	413,306	436,382	1,082,839
資金支出調整勘定	△ 193,241	△ 163,273	△ 263,930	△ 328,239	△ 859,332	△ 228,050
次年度繰越支払資金	4,748,268	5,270,291	5,122,388	4,918,232	5,458,192	5,113,291
資金支出の部合計	15,919,773	18,902,441	16,355,199	16,068,873	27,810,861	18,208,412

収入の面では、臨時定員増の段階的解消や就学人口の減少にともなう学生生徒等納付金収入、手数料収入などが減収状況にあります。このような状況のもとで増収策の一つとして、安全性を最優先としたうえで特定資産の効果的運用を行なっているので、資産運用収入（主として受取利息）は増加傾向にあり、2002年度と比較すれば2007年度は2億円程度増加しています。また寄付金についても、2007年度より周年記念事業のための募金事業により増加しました。

支出については、教育研究経費支出は、国際交流の推進、キャリア形成支援、学内情報インフラ整備等教学条件の向上につとめていますので年々増加傾向にあります。また管理経費支出についても、近年競争力向上・強化のための戦略広報予算の計上、事務システムの整備（オープン化）、周年記念事業の推進などにより増加しています。施設関係支出および設備関係支出については、本学院は1995年に大学・法人部門が現在の和泉キャンパスに全面移転したため、施設が新しく設備も充実しているので2006年度までは、2001年度の法学部増設のための投資を除けば大規模なものはありませんでした。2007年度は、2008年度に昭和町キャンパスに開設の中学校のための学舎の建設やキャンパスの整備等で大幅に増加しました。今後も周年記念事業および目下推進中の中長期ビジョンの一環として、和泉キャンパスの総合教育棟（仮称）の建設、昭和町キャンパスの新体育館の建設やキャンパス整備などで多額の設備投資が見込まれます。

## (2) 連続消費収支計算書(2002年度～2007年度)

## 【法人全体】

単位：千円

科 目	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
消 費 収 入						
学生生徒等納付金	9,491,136	9,188,815	8,792,292	8,731,150	8,579,136	8,465,820
手数料	489,462	435,232	393,991	320,901	317,809	281,006
寄付金 (内、現物寄付金)	89,984 ( 1,439)	50,393 ( 1,499)	57,509 ( 2,835)	42,043 ( 3,549)	34,611 ( 1,000)	113,750 ( 7,900)
補助金	1,079,203	964,041	1,004,094	935,716	1,002,663	1,158,204
資産運用収入	237,379	244,326	273,408	317,906	366,905	433,212
資産売却差額	0	0	0	0	0	0
事業収入	63,787	68,806	81,872	81,429	84,037	95,987
雑収入	359,383	239,240	257,896	317,638	268,720	198,134
帰属収入合計	11,810,334	11,190,852	10,861,061	10,746,783	10,653,881	10,746,111
基本金組入額合計	△ 316,737	△ 183,839	△ 486,141	△ 445,330	△ 670,426	△ 1,848,123
消費収入の部合計	11,493,596	11,007,013	10,374,921	10,301,453	9,983,456	8,897,987
消 費 支 出						
人件費 (内、役員退職金・退職給与引当金繰入額)	6,404,569 ( 578,742)	6,097,481 ( 388,521)	6,215,977 ( 508,583)	5,990,285 ( 420,599)	6,019,250 ( 416,872)	6,046,993 ( 328,482)
教育研究経費 (内、減価償却額)	3,331,152 ( 1,190,640)	3,087,157 ( 1,196,849)	3,289,258 ( 1,198,661)	3,524,146 ( 1,133,875)	3,550,275 ( 1,102,484)	3,668,342 ( 1,085,119)
管理経費 (内、減価償却額)	810,005 ( 136,203)	752,289 ( 133,717)	656,254 ( 135,149)	908,165 ( 128,849)	892,205 ( 118,222)	975,560 ( 116,913)
借入金等利息	0	0	0	0	0	0
資産処分差額	262,099	7,745	4,254	26,336	5,006	9,692
徴収不能額	0	0	0	0	0	0
消費支出の部合計	10,807,825	9,944,672	10,165,743	10,448,932	10,466,736	10,700,586
当年度消費収入超過額	685,771	1,062,341	209,178	△ 147,479	△ 483,280	△ 1,802,599
前年度繰越消費収入超過額	7,518,314	8,204,085	9,266,426	9,475,604	9,328,125	8,844,845
翌年度繰越消費収入超過額	8,204,085	9,266,426	9,475,604	9,328,125	8,844,845	7,042,246
帰属収入－消費支出	1,002,509	1,246,180	695,318	297,851	187,145	45,525

収入の面では、資金収支同様臨時定員増の段階的解消や就学人口の減少にともなう学生生徒等納付金や手数料の減少により、帰属収入が年々減収傾向にあります。そのため、職員早期退職制度の実施、職務内容によっては業務委託やアウトソーシングの導入などにより人件費総額は抑制基調にあるものの、年々の帰属収入減のため人件費比率は増加基調にあります。基本金組入れについては、既述のように本学院は1995年に大学・法人部門が現キャンパスに全面移転したため、施設が新しく設備も充実しているので2006年度までは、法学部増設のための設備投資を行なった2001年度を除けばその組入率も低い状態が続きましました。しかし、2007年度は既述の大規模な設備投資により近年と比較すれば高い数値を示しており、今後とも周年記念事業等の関係で多額の設備投資が見込まれるのでこのような状態が続く見込みです。また、学内情報インフラ整備、国際交流の推進、キャリア形成支援等教学条件の向上に努めておりますので、教育研究経費比率は上昇傾向にあります。

このように、収入は減少傾向にあります。経費支出は増加傾向にありますので、帰属収支差額比率は年々低下してきています。(財務比率関係については、「6. 財務比率の推移」を参照)

## (3) 連続貸借対照表 (2002年度～2007年度)

単位：千円 単位：千円

科 目	2002年度末	2003年度末	2004年度末	2005年度末	2006年度末	2007年度末
<b>資 産 の 部</b>						
固定資産	72,707,488	73,370,614	74,150,880	74,698,154	74,725,737	74,380,245
土地	21,463,158	21,463,158	21,463,158	21,463,158	21,463,158	21,463,158
建物	24,449,958	23,599,233	22,747,295	21,897,027	21,040,937	21,458,652
構築物	2,383,723	2,143,322	1,940,350	1,860,603	1,657,220	1,494,633
備品 (教育研究用・その他)	800,727	641,144	523,875	487,006	385,494	467,870
図書	3,701,498	3,847,464	3,994,218	4,136,911	4,286,949	4,435,566
車輛	618	1,300	1,167	901	1,324	3,206
建設仮勘定	0	0	0	0	300,360	578,827
長期貸付金	958,562	1,014,196	1,013,109	971,757	909,696	872,178
奨学資金引当資産	0	2,732,606	3,032,606	3,032,606	3,032,606	3,062,606
退職給与引当特定資産	3,100,000	3,400,000	3,700,000	3,900,000	3,900,000	3,900,000
第3号基本金引当資産	443,000	443,000	743,000	1,043,000	1,243,000	1,243,000
教育充実資金引当資産	0	500,000	500,000	500,000	0	0
減価償却引当資産	3,900,000	3,700,000	4,000,000	4,500,000	7,120,000	7,720,000
高校施設設備改善引当資産	0	0	0	0	0	0
施設設備等準備引当資産	11,442,649	9,850,223	10,457,946	10,862,877	4,250	4,250
将来構想資金引当資産	0	0	0	0	9,342,877	7,642,877
その他 (施設利用権他)	63,596	34,968	34,155	42,308	37,864	33,421
流動資産	5,253,790	5,697,347	5,633,348	5,367,414	5,917,823	5,591,080
現金・預金	4,748,268	5,270,291	5,122,388	4,918,232	5,458,192	5,113,291
未収入金	383,013	277,076	383,411	306,339	316,360	349,266
短期貸付金	83,172	102,445	111,203	114,243	109,252	100,148
その他 (前払金他)	39,336	47,535	16,346	28,599	34,020	28,375
資産の部合計	77,961,277	79,067,962	79,784,228	80,065,568	80,643,560	79,971,325
<b>負 債 の 部</b>						
固定負債	4,102,051	4,069,427	3,957,260	3,917,848	3,794,624	3,717,034
長期借入金	41,833	27,889	0	0	0	0
学院債 (発行予定含)	0	0	0	0	0	0
退職給与引当金	4,060,218	4,041,539	3,957,260	3,917,848	3,794,624	3,717,034
長期前受金	0	0	0	0	0	0
流動負債	2,077,189	1,970,316	2,103,431	2,126,332	2,640,403	2,000,233
短期借入金	0	13,944	0	0	0	0
短期学院債	0	0	0	0	0	0
未払金	179,497	126,201	219,568	314,885	837,757	200,874
前受金	1,728,402	1,655,495	1,687,144	1,628,530	1,587,834	1,677,345
その他 (預り金関係)	169,290	174,676	196,719	182,917	214,812	122,014
負債の部合計	6,179,239	6,039,744	6,060,692	6,044,180	6,435,026	5,717,267
<b>基 本 金 の 部</b>						
第1号基本金	62,413,380	62,597,220	62,783,360	62,928,691	63,399,116	65,247,240
第2号基本金	0	0	0	0	0	0
第3号基本金	443,000	443,000	743,000	1,043,000	1,243,000	1,243,000
第4号基本金	721,572	721,572	721,572	721,572	721,572	721,572
基本金の部合計	63,577,953	63,761,792	64,247,933	64,693,263	65,363,689	67,211,812
消費収支差額 (翌年度繰越消費収入超過額)	8,204,085	9,266,426	9,475,604	9,328,125	8,844,845	7,042,246
基本金・消費収支差額の部合計	71,782,038	73,028,218	73,723,537	74,021,388	74,208,533	74,254,058
負債・基本金・消費収支差額合計	77,961,277	79,067,962	79,784,228	80,065,568	80,643,560	79,971,325

本学院は借入金ゼロ (2002年度および2003年度の長短の借入金は文部科学省よりのマルチメディア機器購入に関する補助金であり、同省の指示に基づき処理したもので実質的なものではありません) の財政状態であり、そのため自己資金構成比率が高く、総負債比率や負債比率が低い状況でストックの面では安定しています。また退職給与引当特定資産についても、退職給与引当金に見合うだけの額になるように繰り入れを行なっており、安定した雇用環境の維持につとめております。ただ既述のキャンパス全面移転にともなう資産評価の関係で、固定資産構成比率や固定比率は高い値を示しています。(財務比率関係については、「6. 財務比率の推移」を参照)

## 6. 財務比率の推移

(1) 消費収支計算書関係財務比率 【法人全体】

	比率	算式	評価	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	↓	54.2%	54.5%	57.2%	55.7%	56.5%	56.3%
2	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	↓	67.5%	66.4%	70.7%	68.6%	70.2%	71.4%
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	↑	28.2%	27.6%	30.3%	32.8%	33.3%	34.1%
4	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	↓	6.9%	6.7%	6.0%	8.5%	8.4%	9.1%
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	↓	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6	消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	↓	91.5%	88.9%	93.6%	97.2%	98.2%	99.6%
7	消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	↓	94.0%	90.3%	98.0%	101.4%	104.8%	120.3%
8	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	～	80.4%	82.1%	81.0%	81.2%	80.5%	78.8%
9	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	↑	0.8%	0.5%	0.5%	0.4%	0.3%	1.1%
10	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	↑	9.1%	8.6%	9.2%	8.7%	9.4%	10.8%
11	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	↑	2.7%	1.6%	4.5%	4.1%	6.3%	17.2%
12	帰属収支差額比率	$\frac{\text{(帰属収入-消費支出)}}{\text{帰属収入}}$	↑	8.5%	11.1%	6.4%	2.8%	1.8%	0.4%
13	減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却費}}{\text{消費支出}}$	～	12.3%	13.4%	13.1%	12.1%	11.7%	11.2%

(2) 貸借対照表関係財務比率 【法人全体】

	比率	算式	評価	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
1	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	↓	93.3%	92.8%	92.9%	93.3%	92.7%	93.0%
2	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	↑	6.7%	7.2%	7.1%	6.7%	7.3%	7.0%
3	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$	↓	5.3%	5.1%	5.0%	4.9%	4.7%	4.6%
4	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資金}}$	↓	2.7%	2.5%	2.6%	2.7%	3.3%	2.5%
5	自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	↑	92.1%	92.4%	92.4%	92.5%	92.0%	92.9%
6	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	↑	10.5%	11.7%	11.9%	11.7%	11.0%	8.8%
7	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	↓	101.3%	100.5%	100.6%	100.9%	100.7%	100.2%
8	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金+固定負債}}$	↓	95.8%	95.2%	95.5%	95.8%	95.8%	95.4%
9	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	↑	252.9%	289.2%	267.8%	252.4%	224.1%	279.5%
10	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	↓	7.9%	7.6%	7.6%	7.5%	8.0%	7.1%
11	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	↓	8.6%	8.3%	8.2%	8.2%	8.7%	7.7%
12	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	↑	274.7%	318.4%	303.6%	302.0%	343.8%	304.8%
13	退職給与引当預金率	$\frac{\text{退職給与引当特定預金(資産)}}{\text{退職給与引当金}}$	↑	76.4%	84.1%	93.5%	99.5%	102.8%	104.9%
14	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	↑	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
15	減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得価格(図書を除く)}}$	～	25.0%	28.4%	31.8%	34.4%	37.5%	38.9%
16	運用資産余裕比率(年)	$\frac{\text{(運用資産-外部負債)}}{\text{消費支出}}$	↑	2.2	2.6	2.7	2.7	2.8	2.7

<注> 評価について ↑:高い値が良い ↓:低い値が良い ～:どちらとも言えない

「総資金」=負債+基本金+消費収支差額

「自己資金」=基本金+消費収支差額

「運用資産」=各種引当資産+現金預金

「外部負債」=総負債-(退職給与引当金+前受金)

(3) 財務比率の推移データグラフ 【法人全体】

